



同窓会入会式

2月26日（金）

本日、久しぶりに3年生が登校しました。国公立大学の前期日程が24日に始まったため全員がそろった状態ではありませんが、卒業式の予行と皆勤賞の表彰などを行いました。

そのあと、同窓会長の大久保誠之様に出席していただき、同窓会入会式を実施しました。同窓会長挨拶に続いて校長挨拶、同窓会会則の説明、卒業生代表宣誓を行いました。

校長挨拶要旨

同窓会への入会おめでとうございます。みなさんは第120回生となります。同窓生としての誇りと自信を持ってほしいと思います。

皆さんが生徒として過ごした三年間で、この学校で体験できたことが、当たり前と思っているかもしれません。でもそれは、実は同窓会をはじめとした先輩方や保護者の方が皆さんを陰ながらしっかりと支えていたということが徐々にわかってくると思います。

私自身も下妻一高の生徒でいたときや下妻一高で教諭として働いていた時の成功体験は、すべて自分の力でできていたと思っていました。しかし、校長という立場になり下妻一高の成り立ちや周りの環境などを改めて観察してみると、その素晴らしさ、凄さが身に染みてわかるようになりました。

物事がうまくいっているときに、共に喜んでくれたのは勿論ですが、つらい時や困ったときに優しい言葉をかけ、励ましてくれたのは、やはり同窓生のみなさんでした。今は、私の話が分からなくてもいいと思います。でも、いつかそのことに気付けるような大人になってほしいし、みなさんなら必ず気づくと思います。

当たり前と思っていたことが、実はなかなかないこと、つまり、めったにないこと、有難いことであるという気づきになればと思います。どんなことでも「当たり前」ではなく、誰かのおかげと思えば、素直に「ありがとう」という感謝の気持ちに繋がることを期待しています。そして皆さん自身が、同窓会員として後輩を支える存在になることも併せてお願いします。

